

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生まれ育った土地で、その人らしく人としての権利を全うできる人生を送ることができるよう、家庭的な環境作りを考え、安心して暮らしていけるよう支援していくことを意識できる理念になっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会やミーティングなどで、理念についての理解を深めてもらい、日々の業務の中で職員全員が共有できるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関を入ると正面のボードに事業所の理念を掲げてあり、利用者の家族や地域の人達の訪問時に目にふれるようにしている。また、意味の質問があると、職員が対応できるようにしている。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	敷地内にベンチや花壇などを作り、近所の人達が散歩などの行き帰りに気軽に立ち寄って休憩できるようにしている。日常の挨拶は通りががりの人にも行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者も職員と一緒に地域の祭り・近隣の学校や施設の行事に参加したり、地域の幼稚園や中学生の訪問を受け入れ、交流を深めている。ホーム内のベンチは散歩帰りの人達の休憩場所となっているし、気軽に声掛けして日常会話を楽しんでいる。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の自宅近くに暮らしている高齢者からの相談や介護保険の説明など気軽に応じて、場合によってはケアサポートセンターなどの紹介も行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員にも声掛けし、意見を求め自己評価に反映できるように努力した。評価を実施する意義は職員一人一人が理解出来ていることと思います。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の同地区ホームの運営推進会議のメンバーに加え、利用者家族にも参加いただき、2ヶ月に1回開催。現状報告やいろいろな課題について検討・意見交換を行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体担当窓口パンフレットを持参し、挨拶に行っている。	○	市町村担当窓口に対して挨拶程度に留まらず、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えるよう努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し、学ぶ機会を増やすよう努力しているが、今のところは全職員までには行き届いていない。	○	管理者や一部職員に限らず、制度の内容や相談窓口など適切に紹介・説明・支援できるよう努める。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には実践者研修などの資料や統計などを休憩室に置いていつでも見ることができるようにしている。高齢者虐待について理解をしてもらうとともに、職員のストレス対策にも気を配っている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの問い合わせなどに対しては、職員個人だけの判断では誤解を生じる場合もあるため、管理者・施設次長へも報告し、納得できるまで説明し対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の行動の中から不満に思っていることはないか注意を払っている。また、面会時などを利用し家族よりも意見・不満・苦情を遠慮なく報告してもらうようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時などに健康状態・現在の状況などお知らせしている。利用料の支払い時にはお小遣い帳の確認・サインをお願いしている。遠方の家族には電話連絡や、年に数回の訪問の際に詳しく報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や利用者の介護方法への要望などは面会時などに遠慮なく言ってもらえる雰囲気になっていると思うし、それを定例会などで議題の一つとして検討している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会などで話し合ったことは記録に残し後日、運営者や管理者が目を通し、意見・提案に関しては回答するようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の通院やレクレーションで車での移動がある場合などは日勤者を増員したり、施設全体の祭りなどのイベントなどには職員自らが希望して参加してくれる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望休や不平不満など普段から声掛けして発言しやすいようにしているし、忘年会や食事会など親睦の場を作り、ストレスの軽減に努めている。やむを得ず離職になった場合には利用者に動揺のないよう配慮している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は今も続いている。職員も「資格を取るんだ」と意欲を持って望んでいる。また、外部研修は事業所が費用を負担し、出勤扱いにして研修が受けやすいようにしている。	○	職員の経験年数やレベルにあった教育計画を作成し、全職員へ周知するよう努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修や行事などに参加したり、個人でも相互訪問や見学を行なって積極的に取り組み、ネットワーク作りに努力している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設の敷地内に花壇を作り、季節の花などを出勤・退社時に楽しむことができる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のスキルアップを図るため研修への参加や勉強会を積極的に開き、また、勤務状況に合わせて参加できるように同じ勉強会を数回開くことで全員が受講できるようにしている。		
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭に訪問したり、入院されている場合は病院へ面会に行き、本人から身体状況を含み思いなどを聴く機会を設けている。また、本人へ施設見学をすすめたりしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人同様に訪問や施設見学などで不安に思っていることや、これからどのようなケアを望んでいるのか納得がいくまで話し合うようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何をして欲しいのか、何が事業所として出来るのかを見極めて、必要なサービス利用の調整を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの入居が決定後、入居までの間に職員が利用者の家庭などに訪問し、これまでの生活歴や現状を把握したり、事業所に見学に来てもらい馴染みの関係ができるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としていろいろ教えてもらえる事も多く、その時の笑顔も職員の癒しになっている。	○	これからも利用者の感情や表現出来る事の大切さを大事にして、支えあう関係でいたいと考える。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設全体で行なうイベント(クリスマス会・秋祭り・豆まき等)に参加してもらい、歌をうたってもらったり、お孫さんによる楽器演奏していただいたりして、利用者楽しんでもらっている。	○	利用者の日常の暮らしぶりや気づきなどを折に触れて細かに伝えるよう努め、更に家族の思いにも寄り添いながら共に支援していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会があった時など、リビングや自室で利用者や家族が話されている間に邪魔にならないように入って、不安や困っていることを聞いたりして理解に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見など利用者が行った事のある場所を選んで行くように利用者の声や意見を聞いて決めている。友人などへの再会は、家族が外出などで対応してもらう場合もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事では仲の良い人同志が隣にいる場合が多いので、レクレーションや外出先での食事タイムには話しかけのきっかけができるように円座になったり、職員が間に入りコミュニケーションが取りやすいように努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族やその親類知人など自由にホームなどに訪問できるようにしているし、声掛けを行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
	<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや生活習慣などを考慮して、自分でどこまで生活行為ができるのか、どのようにケアして欲しいのかを行動や表情・声掛けに対する反応などで汲み取り、把握できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常会話の中や家族が面会に来られたときなどに了解を得て、生活環境や暮らしぶりなど伺っている。これまでのサービス利用は介護記録(日誌)として残してある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックなどでその日の心身状態を把握して、出来ることを探し体操・レクリエーションや入浴などを行なっている。		
	<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は職員が利用者の一人を責任をもって作成してもらい、協力医療機関の医師や専門職・施設長・管理者・他の職員の助言を受けたり、本人・家族の要望などを取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行ない、現状に即した介護計画になるよう努めているが、見直し以前に利用者の現状に変化が生じた場合はケースカンファレンスを行ないチーム全体で検討し対応できるようにしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の記録として食事・排泄・入浴など身体的状況や本人の言葉や行動等を記入して職員全員で共有している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院介助、個別の買物、理美容師の訪問により外出の困難な利用者に対応してもらっている。また、定期的に往診してもらい健康面の管理を行なっている。	○	グループホームの多機能性を更に強化するよう努める。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に消防署職員の皆さんには定期的に消防訓練、応急手当の講習を行なってもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所のケアマネジャーなどと連携を取り情報交換を行なって、いろんなサービスを必要に応じて利用できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーにもなっていて、周辺情報や支援に関する情報交換を行ない、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の以前からのかかりつけ医への受診を含め、家族と協力して通院介助を行ったり、歯科医の往診など適切な医療が受けられるよう複数の医療機関との関係を密に結んでいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の中に認知症の専門医もおられるので、診断・治療のみならず、対応方法などについての指導助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長・次長が看護師でもあり、利用者の健康管理や身体状況の変化に対応できるようになっている。看護師がいない時間でも介護記録をもとに確実に連携を取っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連携して情報交換を行ない双方の円滑なやり取りができるように努め、利用者が不安にならないようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を定め、家族・医師・専門職の関係者及び職員を交えて話し合いを行なっている。利用者の状況変化がある毎に家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、全員で共有するようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり安心して納得できる終末期であるよう随時、意志の確認を行なっていきたい。また、急変などがあった場合、医療機関とも密に連携が図れるようにしていく。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先との十分な情報交換などを行なうことで利用者が混乱をおこさず安心して暮らすことができるよう支援している。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や定例会などで職員には「個人情報保護法」についての理解を深めてもらっている。日々の対応や声掛け、介護記録などの取り扱いには注意を払っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の日々の行動・言葉・表情・反応などから本人がやりたいこと・出来ること・希望や関心があることなどを把握して、それを支援していくようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望む時間を大切にして過ごしてもらうように出来る限り柔軟に対応できるよう努めている。一人ひとりのペースを尊重し、その日の体調に合わせて利用者が納得されるまでしていただきたい。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者自身の希望や好みを尊重して身体状態状況に応じて選択してもらっているし、常にその人らしさが表現できるよう考慮している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の体調に注意しながら、ホーム前の菜園から収穫した食材を使って調理の下ごしらえに参加してもらったり、誕生会などでは職員と一緒に料理作りをしたりして楽しんでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草に関しては喫煙所を設けて楽しんでもらっている。お酒に関しては日常的に飲酒する人がいないので対応していない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表によって一人ひとりのパターンを把握して、それに合わせた声掛けなどを行ない誘導や介助を行なっている。トイレの掃除や補充品など不足しないよう注意をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できるようにして、本人の希望で入れるようにしている。入浴を嫌がる人にも声掛けなどを工夫して週2回は入浴していただいている。菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤も取り入れ楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にはその人の体調に合わせて疲れない程度に体操やレクリエーションに参加していただいている。入浴後や行事参加後は自室でゆっくり休息してもらうこともある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なことや出来そうなことは声掛けして本人のやる気を尊重し楽しみながら手伝ってもらったりしている。職員は必ず感謝の言葉を述べるように心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は利用者や家族の意向が強い場合に限り所持できるようにしている。外出の折には預かっている小遣いの中から遣っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と一緒に外出したり、食事をしたり、外泊できるようにしている。ホームでもドライブや見学、買物など計画を立て、天候や季節などを考慮しながら行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や行楽地への見物は年中行事として定着している。一人ひとりが普段行けない所には家族の協力を得て出掛けているが、全員が行けるように支援していきたい。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームにある電話を利用してもらっているが、場合によっては職員がダイヤルすることもある。手紙の投函なども頼みがあると行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるホームであるよう気がけ、花壇などに四季折々の花が咲くようにするなど居心地の良い空間や雰囲気作りを心掛けている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会や高齢者の権利擁護・身体拘束・虐待に関する地域の研修会にも積極的に参加して理解や意識向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵がかからないようになっているし、玄関は日中は鍵をかけず必要以上の制止は行なわないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員で利用者の見守り、事務作業中であってもさり気なく全員の状態を把握している。夜間は数時間毎に利用者の安否確認を行ない居室が見える場所に変化にも対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者が慣れ親しんだ物品をなくしてしまうのは混乱を招く恐れもあるので一人ひとりが納得できるように対応していくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケースカンファレンスや定例会などで一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故防止につなげる努力をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防署などをお願いし、応急手当やAEDの使用法などの講習会などに参加して訓練を受けたり、緊急時対応についてのマニュアルを全職員に周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練・退避経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっている。毎月10・20・末日には点検項目を定め、防火点検を職員がおこなっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の一人ひとりに起こり得るリスクを把握して、家族に対して対応策を細かく説明。利用者には無理に抑制することなく暮らしてもらっている。	○	起こり得るリスクについて個別的に定期的な見直しを図る。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から利用者の体調管理には注意して変化や異変の早期発見に取り組んでいる。少しでも変化等が認められた場合には、直ちに管理者に報告し状況によっては受診してもらう。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報提供書・医療記録を綴っている。また医師や看護師よりの指示処置を含め詳細に記録して職員全員で共有できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材や献立には日頃から工夫して取り組んでいる。また午前午後と2回の体操とレクレーションに参加して身体を動かす機会を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面所に移動して行なっている。能力に応じては、職員がケアを行ったり声掛け・誘導している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事はチェック表に記録しており、職員が共有している。栄養バランスも献立表などでチェックしながら取り組んでいる。また、夜の水分補給にも注意を払っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザには予防接種を行ったりしている。勉強会などで感染症についての情報収集をして職員全員で共有している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	普段から調理用具の消毒に取り組んでいる。調理まじり食材の賞味期限の確認などを行なっている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの外観や玄関など一般住宅と変わらず、駐車場横にはベンチを設置。花壇もあり、安心して出入りができるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやカーテンの色にも夏場の日差しの対策など季節感ができるように配慮している。七夕など四季折々の行事もホーム内で楽しんでいる。台所からは生活感のある匂いを感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの空間、テーブルと椅子の空間、ベランダなど利用者の気分や状況に合わせて自由に過ごしていただき、また多人数でも対応できる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が慣れ親しんだ品物や思い出の写真などが置かれている。利用者一人ひとりの個性が出て居心地良く暮らせるようになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングでは窓の開閉などこまめに行ない、換気に気を配っている。居室は利用者がいない時間を利用して換気や掃除を行なっている。冷暖房の温度調節なども利用者の体調を考慮して行なっている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に居室空間が適しているか定例会などで全員で検討し、見直しなどを行ない安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の行動や表情などからわかっている事、わからない事を把握して声掛けを行ない、混乱のないよう自立への支援を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には四季折々の花が植えられている。天候や利用者の体調に配慮しながらベランダに出て話をしたり、ゲームをして楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない